

キャンパス点描

学部オープンキャンパス 2017 を開催しました

2017年7月15日(土)～17日(月・祝)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。

連日の猛暑の中、7,000名を超える受験生や保護者の方々に参加いただきました。

本学のオープンキャンパスはこれまで、初めに大学講堂において全体説明会を実施していましたが、会場を移動する際の混雑を避けるための試みとして、各学科・講座・コースの説明会場を来場者の集合会場としました。

また、新しい取り組みとしてAO入試(新フンボルト入試)説明会の開催や、学生寮(お茶大SCC)の見学を催したほか、平成30年度開設予定の心理学科、子ども学コースの説明会も反響を呼び、



模擬授業の様子

予想を上回る参加がありました。

キャンパス内ではヴァーガンディ(ワインレッド)色のオリジナルTシャツを着たアシスタント学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者との間で活発な質問があり、アシスタント学生も加わって丁寧な説明がされていました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちいたしております。



受付の様子



入試相談コーナーの一コマ

正門門扉復元完成式典が挙行されました

2017年9月7日(木)にお茶の水女子大学正門門扉の復元完成式典が挙行されました。

大学正門は、国道254号線(春日通り)に面し、建設後は戦時中の鉄材料の供出により門扉は外され、1955(昭和30)年3月23日に丸パイプの鋼製門扉に取替えられました。

竣工時より門扉は一度取替えられ門柱照明器具は修理を行いながら、それ以外は手を付けずにお茶の水女子大学の保存建造物(歴史的建造物)として維持管理をしてきました。

今回、大学本館、大学講堂、附属幼稚園園舎の登録有形文化財建造物の保存改修に続いて、残る大学正門の復元として、建設当時の門扉意匠及び道路歩道側の車止め設置の復元を行いました。

これを記念して、文化庁・山崎秀保文化財部長、文部科学省高等教育局・小山竜司国立大学法人支援課長、生涯学習政策局・氷見谷



除幕後の様子

直紀政策課長などの来賓を迎え、室伏きみ子学長をはじめとする大学及び附属学校関係者の出席のもと、正門にて式典が開催され、終始和やかな雰囲気の中で進められました。

仏 ストラスブール大学との大学間協定15周年を記念してワークショップを開催しました

2017年9月21日～22日、お茶の水女子大学とストラスブール大学の大学間協定15周年を記念し、ストラスブール大学において記念ワークショップ「15th Anniversary Unistra-Ochadai Workshop, How can Education and Research contribute to Human Life Innovation?」が開催されました。

開会挨拶の後に、2016年に「分子マシンの設計と合成」でノーベル化学賞を受賞されたストラスブール大学の Jean-Pierre Savage

名誉教授の基調講演が行われました。

その後、「女性研究者の社会への貢献について」のセッションでは、室伏きみ子学長が日本の状況、本学の女性研究者支援の取り組み、これまでのストラスブール大学をはじめとする海外での本学研究者の活躍の紹介等についての講演を行いました。「大学の国際化」のセッションでは、佐々木泰子副学長が政府の取り組み、本学の国際交流の状況やグローバルに活躍するセンター等の紹介の講演を行い

お茶の水女子大学と国立精神・神経医療研究センターが 「連携・協力に関する協定」を締結しました

お茶の水女子大学と国立精神・神経医療研究センターは7月31日(月)に相互に協力可能な分野において、それぞれの研究及び人材育成に関する具体的な連携・協力を効果的に推進することにより、わが国の精神保健研究に寄与するとともに、次世代の優秀な女性人材の育成を協力して行うことを目的とした連携・協力協定を締結しました。

今後は、大学院ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコース設置以来行っている遺伝カウンセラー養成のための実習や研究に加え、人間発達教育科学研究所と国立精神・神経医療研究センター児童・思春期精神保健研究部との連携による発達障害児の長期追跡研究等、広くさまざまな分野での連携を促進する予定です。

また、お茶の水女子大学は以下の地域や企業と協定を締結しました。それぞれの機関の特徴や強みを共有し、教育研究を通じて社会貢献活動も進めてまいります。



国立精神・神経医療研究センターとの協定締結式

- 6月28日：株式会社リバネス(L-RADに関する積極利用に向けた協定)
- 7月12日：東京都北区(連携・協力に関する包括協定)
- 7月20日：埼玉県川口市教育委員会(連携・協力に関する協定)
- 7月31日：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター(連携・協力に関する協定)
- 9月6日：熊本県甲佐町教育委員会及び益城町教育委員会(相互協力に関する協定)

AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

「新フンボルト入試」本格導入後2回目となるプレゼミナールを2017年9月23日(土)・24日(日)に実施しました。2日間にわたって開催し、受験生192名を含め2日間でのべ524人の方々に参加していただきました。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会を提供するものとなっています。

プレゼミナール1日目は、朝がた降っていた雨も開始時刻にはあがり、文系諸分野から5つのセミナー、理系からは8つのセミナー



セミナー(理系)の様子

を開講し、担当の教員がそれぞれ入念な準備をして熱の入った授業を高校生に対して行いました。1日目のセミナー受講者は382名のほります。

2日目は、天候にも恵まれ、受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館情報検索演習を午前と午後それぞれ開講し、また、理学部生物学科では大学院生による研究ポスター発表・自主研究課題相談会を開催し、高校教員8名を含め約142名が参加しました。

従来入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、参加した高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる入試にしたいと考えています。来年以降も、この一風変わった入試に意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを願っています。



全体説明会の様子

ました。さらに加藤美砂子副学長、小玉亮子教授、後藤真里特任准教授の3名が専門分野の講演を行いました。

2日間に渡る様々な議論や懇談を通して、2大学の交流をさらに活発に、深化させていくことを約束しました。



室伏学長による講演

キャンパス点描